

Eエリアタンク(フランジ型タンク)の 残水から検出されたアルファ核種への対応 (続報3)

< 参 考 資 料 >
2021年11月15日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- Eエリアタンクのフランジ型（組立型）タンクの解体作業の中で、D1タンク内の残水（2021年1月28日採取）のアルファ核種（全アルファ）の濃度が建屋内滞留水と同程度であることを確認しました。
- 上記要因がタンク底部の残渣と推定し、水平調査として既設RO濃縮水等を貯留した履歴のあるタンク群について、水質分析を2021年10月から実施することとしました。
（STEP1）既設ROの濃縮水（ALPS処理前水）を繰返し受入れているタンク群
（STEP2）震災直後のRO濃縮水（濃縮塩水）・蒸発濃縮装置の濃縮廃液を貯留した履歴のあるタンク群
- STEP1のタンク群において採水・水質分析を10月18日から28日にかけて実施し、採取した水の水質分析におけるアルファ核種の放射性物質濃度がE-D1,D2タンクと比べ比較的低い値であることを確認いたしました。また、STEP1対象のタンクベント部の表面汚染密度の測定を実施し、有意なアルファ・ベータ核種による汚染は確認されませんでした。

<2021年10月29日までにお知らせ済み>

- STEP2のタンク群のうち、一部について採水準備が整ったことから、明日（11月16日）から数日かけて採水を実施いたします。採取した水すべての水質分析が終わり次第、結果をとりまとめて公表いたします。
- 今回の水質分析におけるアルファ核種の放射性物質濃度に応じて、適切な対応（当該タンク運用の変更・タンク内残渣の建屋への移送等）を検討・実施してまいります。

<参考> 水質分析対象タンク群(再掲)

廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合/事務局会議
(第144回) (2021年9月30日 資料抜粋_加工)

- 建屋滞留水と同程度のアルファ核種検出は、タンク底部の残渣に起因したものと考えており、残渣発生の推定要因は、既設ROの凝集沈殿物もしくは、震災直後のRO濃縮水（濃縮塩水）・濃縮廃液と考えられる。
- その為、既設ROの濃縮水（ALPS処理前水）を繰返し受入れているタンク群及び震災直後のRO濃縮水（濃縮塩水）・蒸発濃縮装置の濃縮廃液を貯留した履歴のあるタンク群について、2021年10月からSTEP1の水質分析を行う予定。順次STEP2についても水質分析を行う予定。

<既設ROの濃縮水を繰返し受入れているタンク群> (STEP1) ⇒実施済(10/18~10/28)

| 対象タンク群 | | 内容 |
|--------|--------|--|
| ① | H8-A群 | RO濃縮水（ALPS処理前水）の運用タンク（現在） EエリアD1・D2タンクの残水の受入れ |
| ② | H8-B群 | RO濃縮水（ALPS処理前水）の運用タンク（過去） |
| ③ | D-B,C群 | RO濃縮水（ALPS処理前水）の運用タンク（現在） |

<震災直後のRO濃縮水（濃縮塩水）・蒸発濃縮装置の濃縮廃液を貯留した履歴のあるタンク群> (STEP2)

| 対象タンク群 | | 内容 | 今回対象 |
|--------|--------------------|---|-------------|
| ④ | J1-A,C,G群 G3-D群 | 震災直後のRO濃縮水（濃縮塩水）⇒RO濃縮水（ALPS処理前水）⇒ALPS処理水等 | |
| ⑤ | D-A群 H2 C | 震災直後に運用していた蒸発濃縮装置の濃縮廃液を貯留 | 12月上旬から開始予定 |